

公益社団法人 日本糖尿病協会
REPORT 2022

糖尿病スティグマの
ない社会へ



日本糖尿病協会公式
マスコットキャラクター
「マールくん」

CONTENTS

- 1 TOP MESSAGE
- 2 日本糖尿病協会の概要
- 3 日本糖尿病協会の会員
- 4 アドボカシー活動
- 2022年活動ハイライト
- 6 ポイント1 「糖尿病のある人への支援」
- 7 ポイント2 「医療者への支援」
- 8 ポイント3 「災害への備え」
- 9 ポイント4 「企業との協働」
- 10 2022年度 日本糖尿病協会タイムライン
- 12 事業一覧
- 14 発行雑誌紹介
- 15 糖尿病協会グッズ紹介
- 16 日本糖尿病協会と連携する諸団体
- 17 2022年度 役員名簿／決算書
- 18 2022年度 日本糖尿病協会賞受賞者
- 19 入会案内、ご寄付のご案内
- 20 日本全国に広がるネットワーク
- 21 都道府県糖尿病協会 news



Top Message



日頃より、日本糖尿病協会の活動にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。2022年度の当協会の事業記録をお届けいたします。ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

2022年度は、新型コロナウイルスと共生する機運が社会に生まれ、人々の距離にも少しずつ近さが戻った1年でした。未知のウイルスに翻弄された世界も、人々の叡智により、夜明け前の暗さを抜けて、新しい朝の光で満たされるときが近づいているように感じます。

日本糖尿病協会は、コロナ禍にあっても、この光を見つめて様々な活動を行って参りました。例えば、アドボカシー活動の一環として2022年11月に実施したメディアセミナーにより、糖尿病のスティグマの存在が大きく取り上げられ、なかでも糖尿病の病名変更に注目が集まりました。

病名変更には、科学的な裏付けとともに当事者がどう受け止めるかが非常に重要であり、同時に様々な関係者が存在するため、慎重な議論が必要です。それでも、その名前により不快な思いをし、不利益を被る人がいるのであれば、私たちは、そうした人々が笑顔を取り戻すことができるよう力を尽くすべきであり、呼称などの言い換えを検討すべきと考えます。

日本糖尿病協会は、社会に残る糖尿病の偏見を払しょくする啓発活動を強化することにより、糖尿病を正しく、深く理解できるやさしい社会づくりを目指しています。そして、この活動には、糖尿病とともに生きる皆さんの声や協力が不可欠です。引き続き、当協会のアドボカシー活動へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2023年5月

公益社団法人 日本糖尿病協会

理事長 **清野 裕**

関西電力病院 総長

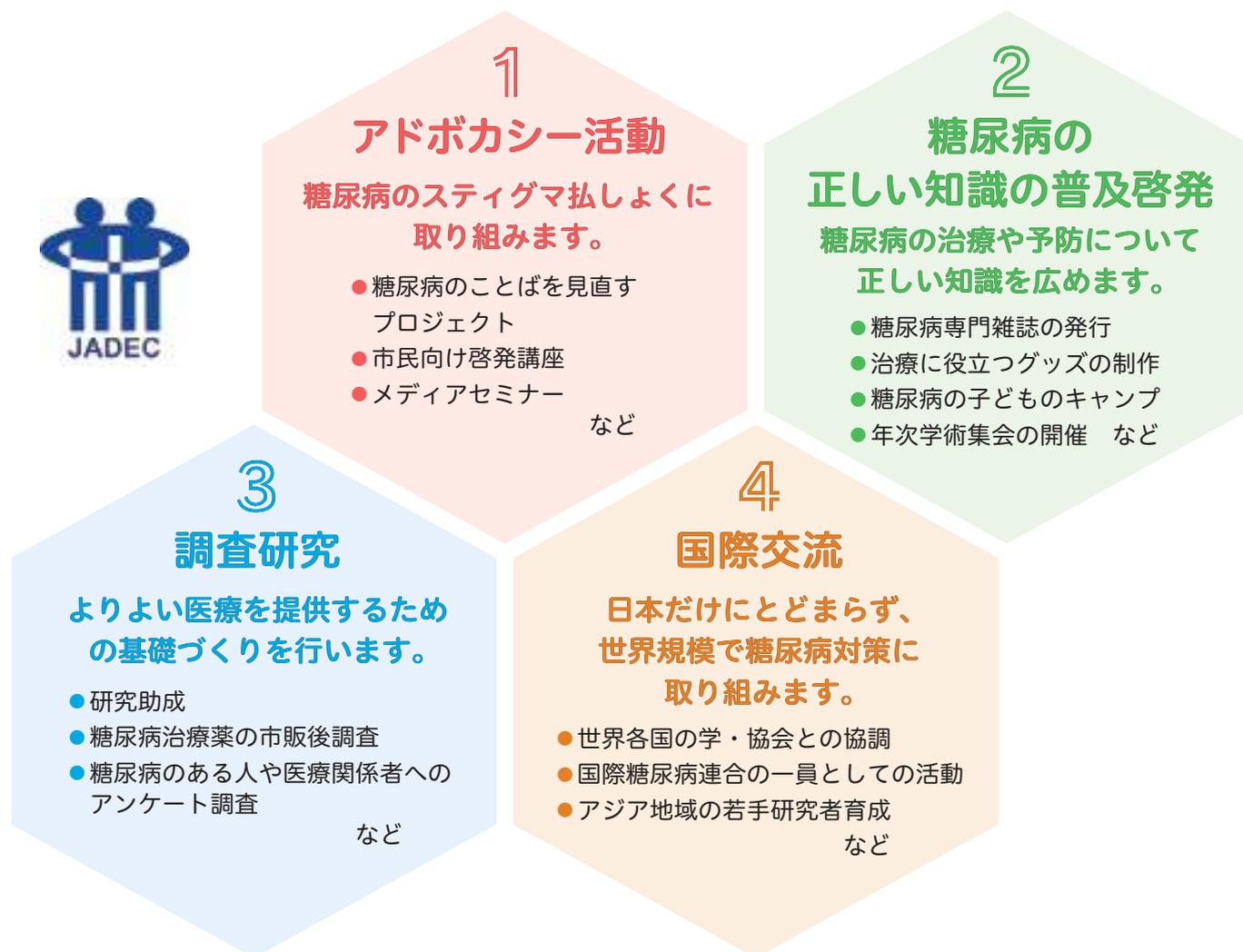
関西電力医学研究所 所長

京都大学名誉教授

アジア糖尿病学会(AASD)理事長

日本糖尿病協会の活動について

日本糖尿病協会のステークホルダーは、糖尿病のある人、医療者、自治体、企業など多岐に渡ります。そうした方々に向けて、以下の4つの目標を持って活動しています。



日本糖尿病協会の特長

日本糖尿病協会は、糖尿病のある人と医療者、それに企業や健康に関心の高い市民が連携して、糖尿病撲滅を目指す団体です。医療者も医師・歯科医師をはじめ、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など幅広い職種が参加し、良質な医療を提供するための取り組みを行っています。また、糖尿病のある人やそのご家族が暮らす地域や職場にも呼びかけ、正しい知識と予防の啓発を実施しています。



日本糖尿病協会の会員

日本糖尿病協会には、糖尿病に関心のある方ならどなたでも入会することができます。糖尿病のある人やご家族、糖尿病診療に携わる医療者や企業の皆さんが、日本糖尿病協会という輪の中で同じ目的をもって活動しています。

友の会会員

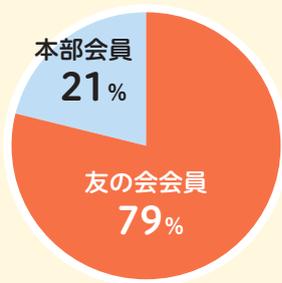
医療機関に設けてある「糖尿病友の会」に入会する会員です。協会誌「糖尿病ライフさかえ」の購読と、友の会での交流活動に参加できます。友の会は、全国の約1,600の医療機関に設置されています。

上記以外にも、日本糖尿病協会の目的に賛同して、活動をご支援いただく企業・団体や個人を対象とする賛助会員制度もあります。

本部会員

日本糖尿病協会本部に入会し、協会誌「糖尿病ライフさかえ」を購読して、糖尿病の知識を深めることを目的とする会員です。全国どこからでも入会が可能で、若い世代や医療者が多く参加しています。

会員の所属先



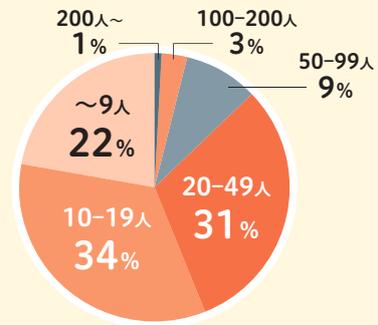
友の会

- 医療機関に設置の分会（約1600）に加入
- 会員の8割前後は糖尿病のある人と推定
- 会員氏名は本部では把握せず

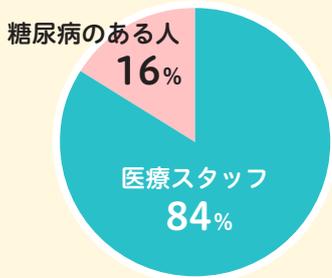
本部会員

- 個人加入

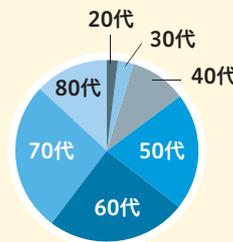
在籍人数からみた友の会の大きさ



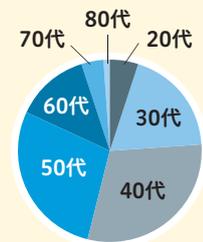
本部会員の属性



■年齢



糖尿病のある人



医療スタッフ

2022年度 賛助会員

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
帝人ファーマ株式会社
ティーベック株式会社
テルモ株式会社
株式会社ティ・プラス
サンスター株式会社
大正製薬株式会社
MSD株式会社
PHC株式会社
アボットジャパン合同会社
日本イーライリリー株式会社
アークレイマーケティング株式会社
興和株式会社
田辺三菱製薬株式会社

株式会社ファンデリー
有限会社ニック
サラヤ株式会社
松谷化学工業株式会社
江崎グリコ株式会社
株式会社コームラ
日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社
株式会社おいしい健康
ロシュ DCジャパン株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
住友ファーマ株式会社
東ソー株式会社
大塚食品株式会社
アストラゼネカ株式会社

LifeScan Japan株式会社
ニプロ株式会社
小野薬品工業株式会社
協和キリン株式会社
株式会社三和化学研究所
味の素株式会社
第一三共株式会社
サノフィ株式会社
株式会社浅田館
アステラス製薬株式会社
日本メドトロニック株式会社
エムベクタ合同会社

(順不同、敬称略) 2023年3月31日現在

アドボカシー活動

「糖尿病にまつわることばを見直すプロジェクト」

日本の糖尿病人口は、予備群を含め約2,000万人^(※)。成人の4人に1人が関係する一般的な疾患です。しかし、糖尿病には生活習慣病の語感からくる不適切なイメージが付きまとい、「食べ過ぎや不摂生が原因」「自己管理ができていない」などの偏見が生じています。また、就学、就職、結婚などのライフイベントで不利益を被る事例も報告されています。

こうした社会の偏見は、糖尿病のある人に「負の烙印＝スティグマ」を押しします。そして、スティグマを恐れるあまり、糖尿病があることを隠し、適切な治療機会を失うことで、合併症を発症してしまうという悪循環をもたらします。

そこで、日糖協は、まずは医療現場で習慣的に使われることばの中で、スティグマが生じうる用語を見直すことで、医療現場を起点に糖尿病の負のイメージを一掃し、糖尿病のある人が前向きに治療に取り組む環境を整備したいと考えます。そして、この活動を社会に発信していくことで、将来的に「糖尿病」に代わる新たな「呼称」の議論につなげるとともに、社会全体の糖尿病に対するスティグマ払しょくを目指します。糖尿病があってもいきいきと暮らせる社会づくりをご一緒しましょう。

(※) 厚生労働省 令和元年国民健康・栄養調査



アドボカシーポスター

企業によるアドボカシー活動

糖尿病にまつわることばを見直すプロジェクトには、日糖協企業委員会に参加する多くの企業が賛同してくださりました。賛同企業は、企業委員会33社のうち25社にのぼります。各社は、可能な範囲で、自社が発行する資料の見直しや社員教育にアドボカシーの概念を取り入れてくださっています。そして、市民向け、医療者向けに開催する企業の講演会においても、糖尿病のスティグマとそれを払しょくするためのアドボカシー活動に関するテーマが数多く設定され、情報発信が活発化しました。



アドボカシー啓発活動講演会(共催：住友ファーマ株式会社)



市民公開講座(共催：帝人ファーマ株式会社)



全国糖尿病週間WEBセミナー(共催：帝人ファーマ株式会社)

メディアセミナー開催

日糖協のアドボカシー活動を紹介するため、報道関係者を対象とするメディアセミナーを11月7日に日糖協本部で実施しました。セミナーでは、清野理事長が「糖尿病のスティグマとアドボカシー活動」、山田業務執行理事が「糖尿病にまつわることを見直すプロジェクトの紹介」、津村理事が「糖尿病の病名に関するアンケート」について紹介しました。17社から32人が参加しました。



清野裕理事長



山田祐一郎業務執行理事



津村和大理事



日糖協メディアセミナー後 記事掲載一覧

| 月日 | 媒体 | 見出し |
|--------|--|--|
| 11月7日 | JJL.com、yahooニュース | 「糖尿病」の名称変更へ～患者の9割が不快感～ |
| 11月8日 | 日刊薬業 | 「糖尿病」の名称変更、学会と連携し提言へ 協会・山田理事「1、2年の間にできれば」 |
| 11月9日 | テレビ朝日「ABEMA Prime」/ ABEMA Times | 「糖尿病」の名称変更、偏見解消につながるカタチは？ “太った人”“ガツガツ食べる人”の映像を用いた報じ方も誤解の原因 |
| 11月9日 | Medical Tribuneオンライン | 糖尿病のスティグマ撲滅、まず言葉から 日本糖尿病協会が推進するアドボカシー |
| 11月10日 | 47NEWS | 「糖尿病」の名称変えて 負の印象、患者の9割が不快感 |
| 11月10日 | 静岡新聞 | 糖尿病 名称変えて |
| 11月10日 | 北海道新聞 | 糖尿病の名称 患者は不快感 |
| 11月10日 | TBS「news every」/ TBS NEWS DIG | 糖尿病の名称が変わる？ ほかにニート→レイブル、暴走族→珍走団、中途採用→経験者採用 |
| 11月11日 | 産経新聞 | 「糖尿病」名称変えて 怠惰・不潔……負の印象 患者の9割「抵抗感」 |
| 11月11日 | 毎日新聞 | 「糖尿病」の名称 患者の9割不快 協会調査 |
| 11月12日 | 日本経済新聞/日経電子版 | 糖尿病「名称変えて」 患者の9割、負の印象に不快感 |
| 11月12日 | フジテレビ「ワイドナショー」 | 「糖尿病」の病名変更？ |
| 11月13日 | 毎日新聞 | 1面コラム |
| 11月14日 | CareNet.com | 医療者も実は……？ 糖尿病のスティグマを見直す/日糖協の活動 |
| 11月14日 | 朝日新聞DIGITAL | 「不摂生」「だらしない」糖尿病患者が偏見を持たれてしまう理由とは |
| 11月14日 | 日本テレビ「news ZORO」 | 世界糖尿病デー「糖尿病」病名変更の動きナゼ？ |
| 11月15日 | 日本歯科新聞 | 「糖尿病」の用語変更を目指す 日本糖尿病協会 |
| 11月16日 | ケアネット | 「糖尿病」の名称変更、医師6割が反対/医師1,000人アンケート |
| 11月17日 | Medical Tribune | 変わる糖尿病像とアドボカシー 糖尿病のスティグマ撲滅、まず言葉から 日本糖尿病協会が推進するプロジェクト |
| 11月17日 | The Japan Times / the japan timesオンライン | Facing stigma, people with diabetes seek change of disease's Japanese name |
| 11月17日 | NHKラジオ第一放送 | 「糖尿病」の病名変更とアドボカシー |
| 11月20日 | NHK総合テレビ | 「おはよう日本」 |
| 11月21日 | 山陽新聞 | 全国糖尿病週間 アドボカシー活動「自己責任ではありません」「負い目を感じない社会に」 |
| 11月22日 | 産経新聞 | 「糖尿病」病名変更に1票 |
| 11月28日 | 読売新聞 | 「糖尿病」解消へ議論 「尿に糖」実態そぐわず |
| 11月30日 | 山口新聞 | 糖尿病、負の烙印解消を 「患者のせい」は誤解 |
| 12月5日 | 毎日新聞 | なぜ病名を変えるのか |
| 12月6日 | 京都新聞 | 糖尿病に正しい理解を 病名変更含め 偏見解消訴え |
| 12月11日 | 読売新聞 | 言葉の言い換え 求められる配慮 |
| 12月15日 | 日経新聞 | 1面コラム |
| 12月15日 | 産経新聞 | 糖尿病 負のイメージ解消を |
| 12月19日 | 共同通信47NEWS | 「糖尿病と呼ばないで」患者の切実な願い 「ぜいたく病」のイメージは偏見・誤解、実は遺伝的な要因が絡む国民病 |

糖尿病のある人 への支援

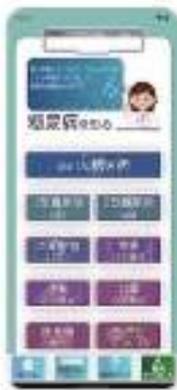
子どもからお年寄りまで、糖尿病はすべての世代に関わる疾患です。2022年度も糖尿病とともに生きる皆さんに役立つ取り組みを、リアルとデジタルの双方で展開しました。

小児糖尿病バーチャルキャンプ

コロナ禍の影響で、宿泊型のキャンプは3年連続で中止となりました。日糖協では、キャンプの中止により、糖尿病の子ども達と彼らを支援する医療スタッフの繋がりが途切れることのないよう、オンラインでの「小児糖尿病バーチャルキャンプ」を11月20日(日)に実施しました。全国から352人がアクセスし、「バーチャル山登りゲーム」や「1型糖尿病の有名人からのメッセージ」などのコンテンツを楽しみました。



糖尿病のある高齢者向けアプリ「糖尿病を知る」



ITを活用して、平時でも災害発生などの非常時でも、糖尿病のある高齢者に適切な情報を伝えることを目的に、デジタルアプリ「糖尿病を知る」を開発し、無償で提供。ダウンロード数は約3,700件に上りました。

このアプリの特徴は、ITに親和性のない高齢者でも簡単に操作できる点にあり、文字数を減らして情報量をコンパクトにまとめています。

また、災害時には、糖尿病のある人の避難生活に必要な情報を提供します。このアプリは、日本財団の助成により制作しました。



iOS



Android



TDJ (TEAM DIABETES JAPAN)

TDJは、ホノルルマラソンへの参加など、国際交流も活発です。2023年3月3日、東京マラソン2023に参加するため来日したチリの1型糖尿病のランナーと、チリ大使館で交流したこともいい思い出です。TDJのスローガン「No Limit! ~糖尿病があっても何でもできる!」は国際共通のことばのようです。



同じインスリンポンプを使ってました!



歩いて学ぶウォークラリー (共催：ノボノルディスクファーマ株式会社)



例年、全国で実施しているウォークラリーも、コロナ禍で3年連続での中止となりました。

その代替わりとして、ウォーキングアプリ「そとでる」とオンラインセミナーを連動させたイベント「歩いて学ぶバーチャルウォークラリー」を、11月12日に実施しました。全国から362人がアクセスし、毎日の運動の大切さを学びました。



医療者への支援

日糖協の会員における医療者の割合は約4割と、設立当初から大きく増加しました。こうした医療者のニーズを受け、各種教育ツールの普及や医療連携支援に取り組んでいます。全国どこでも質の高い糖尿病医療が受けられる環境づくりを目指します。

第9回日本糖尿病協会年次学術集会

7月23-24日、3年ぶりの学術集会対面開催が実現しました。内潟安子会長（東京女子医科大学附属足立医療センター）は、「糖尿病医療に求められるニューノーマル」をテーマに、コロナ禍を経た糖尿病医療の新たな取り組みの提示や普遍的な要素の確認を通じて、これからのウエルビーイングについて考える機会を参加者に提供しました。会期後のオンデマンド配信を含め、1,593名の医療者が参加しました。



糖尿病カンバセーション・マップ™



オンライントレーニングでは動画も活用して、実地トレーニングと遜色のない講習会が行われました。

2010年から日糖協が普及活動を始めた糖尿病カンバセーション・マップは、糖尿病のある人やご家族がグループとなり、医療者のファシリテーションのもと、すごろくのような「マップ」を見ながら、糖尿病について感じたことを話し合うツールです。ファシリテーターを育成するトレーニングを、2022年度はオンライン3回・対面5回で実施しました。参加者は133人でした。（日本イーライリリー株式会社協力）



糖尿病カードシステム

糖尿病カードシステムは、糖尿病のある人一人ひとりの特徴に合わせたサポートができるテーラーメイドな医療支援ツールです。糖尿病の治療を約100種類に細分化し、それぞれのカードに対応したリーフレットを用いて医療支援を行うことができます。

2022年度は、医療現場だけでなく、自治体の特定保健指導にあたる保健師や管理栄養士の皆さんに利用いただく仕組みづくりと研修会を実施しました。



災害への備え

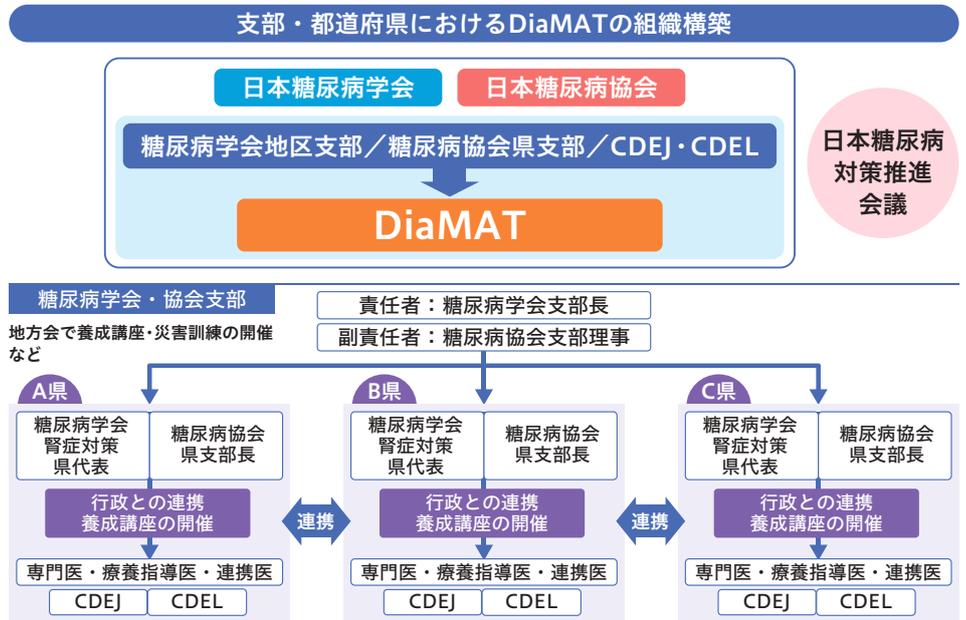
日糖協は、日本糖尿病学会と連携して2022年に「糖尿病医療支援チーム」(DiaMAT)を創設し、災害が起きる前の防災教育から発災時の支援まで、糖尿病のある人をトータルに災害から守る仕組みを整えることになりました。

DiaMAT = Dibetes Disaster Medical Assistance Team

糖尿病医療支援チーム「DiaMAT」創設

DiaMATを構成するのは、日糖協、日本糖尿病学会を中心に、各地域の糖尿病協会や糖尿病学会地区支部とその関係者、そしてCDEJやCDELの有資格者です。

DiaMATの活動は、「平時」と「災害時」に大別されます。平時には、DiaMATに参加する医療者の教育や登録、糖尿病のある人への防災教育、災害に備えた情報発信ツールの整備を行い、災害発生時には、情報収集と被災地での糖尿病医療支援を行います。



LINE公式アカウント

災害発生時の情報収集や情報提供に活用できるLINEアカウントを開設しました。現在は日糖協からの情報発信のみですが、将来的には都道府県糖尿病協会ごとにアカウントを作り、地域ごとにインスリン治療を行う人への情報発信を行えるようにします。



日糖協LINE公式アカウント

防災教育資料

災害への備えから災害発生時の避難所生活まで、場面に応じて必要な情報が提供できる資料が揃っています。これらの資料は、日糖協HPからダウンロードできるようになっています。そして、糖尿病のある高齢者向けアプリ「糖尿病を知る」とも連携していて、アプリが災害モードに変わった際にはスマートフォンでも資料を確認できるようになっています。



糖尿病連携手帳挟み込み型 防災リーフレット



災害時サポートマニュアル



アプリ「糖尿病を知る」
災害モード



「災害時1,2,3」シート



災害時ハンドブック

企業との協働

日糖協には、糖尿病領域で活躍する製薬・医療機器企業が参加する企業委員会があります。委員企業33社は、社会貢献の視点から、日糖協と共催で市民向けの糖尿病啓発活動を行うとともに、糖尿病連携手帳などの協会グッズの配布に協力してくださっています。

共催事業 KiDSプロジェクト (共催：サノフィ株式会社)

糖尿病の子どもの健やかな成長を支援するため、教育現場に糖尿病の正しい知識を伝える取り組みがKiDSプロジェクトです。糖尿病専門医とインスリンメンター^(※)が、糖尿病の子どもが在籍する学校を訪問し、教職員へのレクチャーや質疑応答を行う出張糖尿病教室です。2022年度は東京都内の小学校で、3年ぶりにKiDSプロジェクトを実施しました。



(※) 日糖協の認定資格。ピアサポートをコンセプトに、糖尿病のある人が小児糖尿病キャンプや学校を訪問して自らの体験を伝えています。

共催事業 JADEC one team meeting (共催：住友ファーマ株式会社)

日糖協本部と、各都道府県の糖尿病医療で活躍する医療者の連携の場として設定されたオンラインセミナーです。協会活動を紹介するとともに、各地域が直面する課題を共有することで、地域の実情に合わせたよりよい医療が提供できる環境づくりを行いました。2022年度は、青森県、栃木県、新潟県で実施し、医師、メディカルスタッフが331人参加しました。



共催事業 JADEC Cooking Web Seminar (共催：小野薬品工業株式会社)

主に糖尿病を専門としない医師やメディカルスタッフを対象に、糖尿病診療に活用できる調理実演webセミナーです。レクチャーと実習を組み合わせたスタイルで、食事療法の基本や調理のコツなどの情報を提供しました。4月27日、9月12日の2回実施し、合計で約15,600人が参加しました。



監修事業 どうなる? どうする? 糖尿病 (日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、日本イーライリリー株式会社)

糖尿病の高血糖状態がもたらす血管への影響と合併症予防の啓発を目的に、日本ベーリンガーインゲルハイム(株)と日本イーライリリー(株)が展開するキャンペーンの監修を行いました。キャンペーンでは、ポスタービジュアルの地方紙やweb広告掲載、院内動画の放映のほか、健康を維持するための食事のコツをまとめたリーフレットを制作し、地域の基幹郵便局で配布しました。



2022年度 日本糖尿病協会タイムライン

| 会議など | | イベント・講習会など |
|-----------------------------------|-----|---|
| 6 2022年度第1回適正化委員会 | 4月 | 10 CDEネットワーク中部・東海ブロック運営連絡協議会 |
| 18 第1回日糖協DiaMAT推進委員会 | | 24 糖尿病カンパセーション・マップ オンラインファシリテータートレーニング |
| 24 第1回理事会 | | 27 JADEC Cooking Web Seminar①(共催：小野薬品工業株式会社) |
| | 5月 | 14 ウクライナ支援の募金活動開始 |
| | | 22 歩いて学ぶバーチャルウォークラリー①(共催：ノボ ノルディスクファーマ株式会社) |
| | | 26 JADEC one team meeting in 青森(共催：住友ファーマ株式会社) |
| 29 日本糖尿病協会定時総会 | 6月 | |
| 29 第2回理事会 | | 19 糖尿病カンパセーション・マップ オンラインファシリテータートレーニング |
| 17 第1回日糖協登録医・認定医検討委員会 | | |
| 19 第1回企画啓発委員会 | | |
| 25 第1回日糖協アドボカシー委員会 | | |
| 26 第1回医療者教育委員会 | | 27 CDEネットワーク甲信越ブロック運営連絡協議会 |
| 26 第1回「さかえ」編集委員会 | 7月 | |
| 27 第2回日糖協DiaMAT推進委員会 | | 23-24 第9回日本糖尿病協会年次学術集会(京都市) |
| 3 第1回ペイシェントサポート委員会／小児・ヤング糖尿病対策委員会 | | 24 糖尿病カードシステム研修会(京都市) |
| | | 27 高齢者向けスマートフォンアプリ「糖尿病を知る」提供開始 |
| 9 近畿ブロック会議 | 8月 | 24 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・茨城県) |
| 26 第1回企業委員会 | | |
| 31 第1回適正化委員会WG | 9月 | |
| 8 第1回糖尿病カンパセーション・マップ委員会 | | 12 JADEC Cooking Web Seminar②(共催：小野薬品工業株式会社) |
| 11 第3回理事会 | | |
| 18 第1回DM Ensemble編集委員会 | 10月 | 「食事の工夫～料理をしてみませんか？」発刊 |
| 21 第3回DiaMAT推進委員会 | | 3 インスリン製剤一覧表改訂 |
| 25 第1回臨時総会、第2回企画啓発委員会 | | 5 糖尿病支援WEBセミナー in 中部(共催：住友ファーマ株式会社) |
| | | 8 九州CDEミーティング |
| | | 23 糖尿病カンパセーション・マップ ファシリテータートレーニング(京都市) |
| 8 九州ブロック会議 | 11月 | 25 講演会：患者さんとのカンパセーションー糖尿病治療におけるコミュニケーションのあり方を考える(共催：日本イーライリリー株式会社、住友ファーマ株式会社) |
| 16 都道府県代表者会議 | | 31 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・茨城県) |
| | | 「血糖値が高めといわれた妊婦さんのための食事療法」発刊 |
| 30 第2回「さかえ」編集委員会 | | 5 CDEミーティング in 近畿 |
| | | 7 日本糖尿病協会メディアセミナー 2022 |
| 5 東北ブロック会議 | | 9 アドボカシー啓発活動講演会(共催：住友ファーマ株式会社) |
| | | |
| 10 第2回糖尿病カンパセーション・マップ委員会 | | |
| 12 中四国ブロック会議 | | |
| | | |
| | | 13 WDDオンラインシンポジウム市民公開講座(共催：帝人ファーマ株式会社) |



インスリン製剤一覧表



シンボルライトアップ アミュプラザ鹿児島 観覧車「アミュラン」

- 20 第2回医療者教育委員会
- 25 第2回日糖協登録医・認定医検討委員会

- 14 世界糖尿病デー
- 14 世界糖尿病デー・全国糖尿病週間WEBセミナー(共催: 帝人ファーマ株式会社)
- 19 歩いて学ぶバーチャルウォークラリー②(共催: ノボ ノルディスク ファーマ株式会社)
- 20 小児糖尿病バーチャルキャンプ
- 20 糖尿病カンバセーション・マップ ファシリテータートレーニング(山形市)
- 27 糖尿病カードシステム研修会(福井市)
- 30 CDEネットワーク中部・東海ブロック運営連絡協議会

- 2 関東甲信越ブロック会議
- 18 第3回企画啓発委員会

12月

- 糖尿病食事療法の「あいうえお」リニューアル発行
- 10 糖尿病関連企業EXPERT社員認定試験①
- 17 糖尿病関連企業EXPERT社員認定試験②



EXPERT社員 バッジ・認定証

- 24 近畿ブロック会議
- 25 第2回適正化委員会WG
- 26 第4回DiaMAT推進委員会
- 27 第2回企業委員会
- 29 第1回日本糖尿病学会・協会合同アドボカシー委員会
- 29 第2回DM Ensemble編集委員会

1月

- 21 糖尿病カンバセーション・マップ ファシリテータートレーニング(福岡市)
- 23 JADEC one team meeting in 新潟(共催: 住友ファーマ株式会社)
- 27 CDEネットワーク中部・四国ブロック運営連絡協議会
- 29 糖尿病カードシステム研修会(釜石市)
- 30 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・山形県)
- 31 KiDSプロジェクト出張糖尿病教室(東京都江東区立枝川小学校)

- 4 第3回「さかえ」編集委員会
- 11 第2回ペイシェントサポート委員会/小児ヤング糖尿病対策委員会

2月

- 3 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・栃木県)
- 4 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・栃木県)
- 5 「糖尿病カードシステム」研修会(重症化予防事業・栃木県)

- 15 第1回学術委員会
- 16 2023年度各賞選考委員会
- 17 第5回DiaMAT推進委員会
- 19 第3回医療者教育委員会、第3回糖尿病カンバセーション・マップ委員会
- 20 第1回研究・教育基金運営委員会
- 26 第4回理事会
- 28 第1回糖尿病の呼称案に関する検討WG

- 12 勤労者医療フォーラム「就労と糖尿病治療の両立」(共催: 中部ろうさい病院、愛知県医師会・名古屋市)
- 17 ウクライナ大使館に義援金を寄付
- 19 糖尿病カンバセーション・マップ ファシリテータートレーニング(東京都)
- 21 CDEネットワーク関東ブロック運営連絡協議会
- 25 DM Ensembleリニューアル デジタル版刊行
- 26 調査研究 研究助成採択者決定
- 28 CDEネットワーク北海道・東北ブロック運営連絡協議会



ウクライナ大使館寄付

- 15 第2回糖尿病の呼称案に関する検討WG

3月

- 3 TDJ活動〜チリ大使館での交流会参加〜
- 10 JADEC one team meeting in 栃木(共催: 住友ファーマ株式会社)

- 15 第2回糖尿病の呼称案に関する検討WG
- 28 第3回糖尿病の呼称案に関する検討WG

- 18 糖尿病関連企業EXPERT社員認定試験③
- 19 糖尿病カードシステム研修会(名古屋市)
- 19 糖尿病カードシステム研修会(宮崎市)
- 21 糖尿病カンバセーション・マップ オンラインファシリテータートレーニング
- 25 糖尿病関連企業EXPERT社員認定試験④
- 26 糖尿病カードシステム研修会(長崎市)



研究助成

2022年度事業一覽

1

糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

【市民向け】

1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行

月刊の協会誌として発行し、糖尿病の正しい知識の情報提供と啓発を行った。平均発行部数は70,000部/月となった。

1-2 糖尿病関連書籍の発行

日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を割引価格で医療機関に提供した。取扱冊数は、それぞれ740冊、20冊、40冊、480冊となった。

1-3 全国糖尿病週間の実施

活動の効果を上げるため、全国糖尿病週間の日程を日曜日～土曜日に変更し、11月13日から19日の期間で各都道府県糖尿病協会にて啓発活動を実施した。

1-4 啓発イベントの実施

企業との共催で、オンラインでの市民向け公開講座を実施した。(11月13日「世界糖尿病デー 2022オンラインシンポジウム」帝人ファーマ株式会社)

1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施

世界糖尿病デーの認知向上と糖尿病知識の普及啓発活動を推進した。

1-6 Team Diabetes Japanの運営

Tシャツ、キャップなどのTDJチャリティグッズを販売して、収益を日糖協に寄付した。

1-7 ウォークラリーの実施

実地のウォークラリーを中止し、オンラインイベント「歩いて学ぶ糖尿病バーチャルウォークラリー」を11月19日に実施した。(ノボノルディスクファーマ株式会社共催)

1-8 KiDSプロジェクトの実施

東京都江東区立枝川小学校にて、教職員を対象とする出張教室を実施し、同校の教職員46人が参加した。(サノフィ株式会社共催)

1-9 就労と治療の両立支援

第6回勤労者医療フォーラム「治療と就労の両立支援」～糖尿病医療における障壁(スティグマ)とアドボカシー～を中部ろうさい病院、愛知県医師会との共催で実施した。

1-10 デジタルツールによる知識の普及

日本財団の支援を得て、糖尿病のある高齢者向けの学習支援アプリ「糖尿病を知る」を制作し、7月に公開した。

1-11 糖尿病関連企業EXPERT社員認定制度

4回認定試験を実施した。2020年度からの累計認定者数は、3,108人となった。

1-12 食事療法の新しい啓発資料の開発

「食事の工夫～料理をしてみませんか?」「妊婦さんのための食事療法」を発行し、製菓企業の協力を得て医療機関に配布した。

【医療者向け】

1-13 「DM Ensemble」の発行

2023年2月からは電子書籍に移行し、内容もリニューアルした。定期購読者数は、約3,000人で推移した。

1-14 登録医・糖尿病認定医・登録歯科医制度の展開

糖尿病治療の質の確保をはかることを目的に、登録医・糖尿病認定医の認定を行った。

登録医:1,376人、糖尿病認定医:3,472人、登録歯科医:2,418人

1-15 日糖協CDEネットワークの運営

第9回日本糖尿病協会年次学術集会でCDEミーティングを実施したほか、CDEネットワークブロック別運営連絡協議会を開催した。

1-16 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した糖尿病支援の普及
糖尿病カンパセーション・マップを使用して糖尿病支援を行うファシリテーターを育成するトレーニングをオンライン、対面双方で実施した。

1-17 糖尿病カードシステムを活用した診療支援の普及

研修会やミニレクチャーを開催して、普及・広報に取り組んだ。腎症重症化予防に特化したカードセットを作成し、6月から提供した。国保ヘルスアップ支援事業を利用した自治体との連携事業として、茨城県、山形県、栃木県でカードシステムの研修を行った。

1-18 日糖協eラーニングの運営

コンテンツの改訂を行った。新規アカウント登録者数は、2,685人となった。

1-19 日本糖尿病協会年次学術集会の開催

内湯安子会長のもと、「糖尿病医療に求められるニューノーマル」をテーマに、7月23-24日の国立京都国際会館で開催した。開催後のオンデマンド配信も行い、各職種から1,593人の参加があった。

1-20 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

各地の医師会・歯科医師会や企業が開催する糖尿病研修会を、登録医・糖尿病認定医・登録歯科医向け講習会として467件認定した。

1-21 医療者・介護支援者の連携強化

在宅医療を担当する医療者や介護支援者に役立つ資料の開発を目指し、訪問看護師の団体等にニーズのヒアリングを行った。

1-22 動画資料による学習支援

糖尿病カードシステム、糖尿病カンパセーション・マップの研修で活用する教育動画や広報用動画を制作し、講習会の効率化を進めた。

2

糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究(UNITE Study)
学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- ・インスリン製剤とシタグリブチン併用による有用性の検討—前向き観察研究—(I-UNITE Study)
データ解析を行い、学術誌への投稿に向けて論文を準備した。
- ・トホグリフロジンの安全性および有効性の検討—前向き観察研究—(AYUMI)
第65回日本糖尿病学会年次学術集会およびIDF World Diabetes Congress 2022での学会発表を行い、学術誌への投稿に向けて論文を準備した。

2-2 研究助成

- ・若手研究者助成として11件の研究を採択した。
- ・メディカルスタッフ育成研究助成として7件の研究を採択した。
- ・高齢者の生活の質向上に関する研究助成として3件の研究を採択した。
- ・糖尿病研究・教育基金研究助成として25件の研究を採択した。

2-3 「人を対象とする医学研究」の倫理審査

糖尿病医療のエビデンス作成に向けたメディカルスタッフの研究実施環境の整備として、糖尿病に関する研究の倫理審査を11件実施した。

3 糖尿病のある人及び家族に対する支援事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

COVID-19の影響で友の会活動を自粛、停止する施設が多く、休会15件(前年比+8)、退会25件(前年比-11)となった。一方で、新規に設立された友の会は20件(前年比+3)となった。

3-2 糖尿病治療に役立つグッズ、冊子類の発行

- 糖尿病連携手帳を製薬企業等21社の協賛を得て1,661,200部発行した。177自治体が19,432冊の連携手帳を腎症重症化予防に活用した。自己管理ノートは1,229,000部、糖尿病IDカードを15,000部発行した。
- 食事療法冊子「糖尿病食事療法のあいうえお」を改訂し、235,000部を配布した。「糖尿病腎症の食事療法のかきくけこ」は139,000部を配布した。
- 「食事の工夫」「妊婦さんの食事療法」を新規発行し、各40,000部配布した。

3-3 小児糖尿病対策

- 小児糖尿病キャンプの主催
宿泊型の対面キャンプの実施は見送り、日帰りの対面行事とオンライン行事を対象に、TOOTH FAIRY(日本財団と日本歯科医師会の支援プロジェクト)の支援を得て5,641,500円の補助金を支給した。30団体が事業を実施し、糖尿病のある子ども427人が参加した。
- オンラインキャンプ「小児糖尿病バーチャルキャンプ」を実施した。参加した糖尿病のある子ども71人のうち、53人がキャンプ未経験者となった。医療スタッフの参加は281人だった。
- 1型糖尿病に関する移行期委員会への協力
移行期医療チェックリストをHPに掲載するとともに、日糖協移行期医療コーディネーターが、小児科から内科に移行する子どもの支援を行った。

3-4 インスリンメンターの活用

小児糖尿病キャンプ、KiDSプロジェクト、友の会講演会にインスリンメンターが参加し、ピアサポートを行った。

3-5 ウクライナへの義援金募集

ウクライナの医療支援を目的として、7月～2023年1月まで募金活動を行った。総額1,026,210円を、ウクライナ大使館を通じて現地の糖尿病関連団体に寄付した。

4 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF、IDF-WPR

IDF World Diabetes Congress 2022(12月5-8日、ポルトガル・リスボン)に国際交流委員が参加し、WPR Council Meeting、General Assemblyに出席し、日糖協活動を紹介した。

4-2 AASD

運営助成金を支出するとともに、事務局業務、年次学術集会(14th AASD Scientific Meeting)の支援を行った。

4-3 中央アジアプロジェクト

カザフスタンから日本に留学する若手研究者1人に助成金を支給し、研究支援を行った。

5 その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

個人会員の会費納入方法にコンビニエンスストアでの振込みを追加し、利便性を向上させた。

5-2 都道府県糖尿病協会の運営支援

- 地域の糖尿病対策の充実および会員増強を目指し、47都道府県糖尿病協会に対し地域活動費として57,784,561円(前年度比+4,100,321円)を支出した。
- 全国糖尿病週間の活動支援として、各種資材を21,861部提供した。

5-3 サポーター制度の周知

個人の賛助会員であるサポーターの登録者数は18,692人(前年比+1,995人)となった。

5-4 他団体との連携

- 各地のCDEL養成団体の活動を支援するため、40団体に対し24,300,000円(前年度比+1,000,000円)補助金を支出した。
- 医科歯科連携促進のため、eラーニングによる学習機会を拡充させて登録歯科医の登録・更新増に取組んだ。
- 日本糖尿病対策推進会議の幹事団体として、推進会議加盟の各団体と連携して糖尿病性腎症重症化予防など、国内の糖尿病対策事業を実施した。
- 日本病態栄養学会と食事療法啓発資材の制作で連携した。
- 日本薬剤師会と糖尿病医薬品・医療機器等適正化に関する周知で連携した。

5-5 災害時危機管理対策

- 糖尿病医療支援チーム(DiaMAT)育成
日本糖尿病学会と連携して、災害時に連携可能なブロックごとの医療者の人材育成とネットワーク化を検討した。災害時に活用できるLINE公式アカウントを取得し、情報発信を試行した。
- 災害時糖尿病診療マニュアル改訂
改訂第2版の編集に日糖協DiaMAT委員が参画し、学会・協会合同で編集作業を行った。

5-6 広報事業

- アドボカシー活動に関するメディアセミナーを11月7日に開催し、17社32人が参加した。
セミナー後、糖尿病の病名に関する議論を中心に39媒体で情報発信が行われた。
- ホームページに38本の新着情報を掲載した。
- facebookで、7人のfacebookライターが311本の啓発記事を配信した。

5-7 糖尿病医薬品・医療機器等適正化

- 医療機関における血糖自己測定器の保守点検実施状況のアンケートを実施した。得られたコメントをFAQ形式にまとめてHPで公開するとともに、各種資材に反映させた。
- 在宅医療廃棄物の適正処理について、資源ごみへの混入を防ぐ注意喚起を資材に追加した。

5-8 製薬・医療機器・その他企業との連携

- 糖尿病のこぼれを見直すプロジェクトへの賛同企業を募り、企業の情報発信において糖尿病のスティグマを生みかかない医療用語の見直しを行った。
- 各企業が糖尿病のある人向けに制作する情報提供資材の事前検証を行った。

5-9 アドボカシー事業

- 糖尿病のスティグマ払しょくを目指し、糖尿病医療現場で使われる不適切な用語の見直しをおこなう「糖尿病にまつわるこぼれを見直すプロジェクト」を展開した。
- メディアセミナーを実施して、日糖協のアドボカシー活動を広報した。
- 日本糖尿病学会との合同アドボカシー委員会で、糖尿病の病名や呼称に関する検討を行った。

発行雑誌紹介

日本糖尿病協会では、協会誌として「さかえ」や「DM Ensemble」を発行し、糖尿病治療の正しい知識を提供しています。

月刊糖尿病ライフ「さかえ」

月刊/定価：550円(会員は無料)/64ページ/A4変型判



■さかえ4月号

特集1 メタボリックシンドローム
 特集2 新型コロナウイルス感染症について
 特別企画1 受動喫煙と糖尿病発症の関係
 特別企画2 時間栄養学



■さかえ5月号

特集1 糖尿病で合併しやすい心臓や血管の病気
 特集2 糖尿病、遺伝するってホントですか?!
 特別企画1 糖尿病患者さんと家族が知っておきたい介護・看護に関するサービスと制度



■さかえ6月号

特集1 糖尿病と歯-歯を守って元気な生活を!
 特集2 コロナ禍をチャンスに変えた患者さん
 特別企画1 糖尿病と医療費のはなし
 特別企画2 雨の日の運動療法



■さかえ7月号

特集1 骨粗しょう症に気を付けよう
 特集2 マインドフル・イーティングの勧め
 特別企画1 糖尿病と水泳・水中運動
 特別企画2 子どもが夏を安全に楽しむために



■さかえ8月号

特集1 遺伝的要因から糖尿病を考える
 -糖尿病とゲノムワイド関連解析の進歩と現状-
 特集2 インスリン分泌不全とインスリン抵抗性
 特別企画1 あなたと共有するAGPレポート
 ~AGPレポートの活用方法を知っていますか~
 特別企画2 糖尿病と微量元素



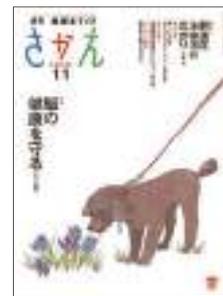
■さかえ9月号

特集1 食生活の工夫で、動脈硬化を防ぎましょう-「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版」をもとに
 特集2 知っておきましょう!透折導入後の生活-食事、薬、旅行、災害時...、透折で暮らしはどう変わる?~
 特別企画1 2022年度 日本糖尿病協会 賞受賞に寄せて
 特別企画2 ステロイドホルモンと糖尿病



■さかえ10月号

特集1 食後高血糖への対策
 特集2 還暦を過ぎたら肉食系を目指そう!? 管理栄養士が勧めるたんぱく質を上手に取り入れるためのアレコレ。
 特別企画 糖尿病患者さんにおけるインターバル運動の効果



■さかえ11月号

特集1 脳の健康を守る
 特集2 肥満症治療法の広がり
 特別企画1 新しい注入器スマートインスリンペン
 特別企画2 食物繊維を積極的にとろう!



■さかえ12月号

特集1 糖尿病における心腎連関について
 特集2 大規模災害時の口腔ケア
 特別企画1 冬に備える
 寒い時季に暮らしの中で気を付けたいこと
 特別企画2 糖尿病チーム医療の今



■さかえ1月号

特集1 最適な糖尿病治療薬の選択を目指した指針の登場
 特集2 2023年冬<最新情報>インフルエンザとCOVID-19
 特別企画1 冬に楽しむ!学べる!スキーキャンプ
 特別企画2 糖尿病とサルコペニア



■さかえ2月号

特集1 睡眠と生活習慣病
 特集2 実は、その症状は自律神経障害かも? 糖尿病性自律神経障害
 特別企画1 インスリン治療を続けるために
 特別企画2 グルカゴン発見100周年



■さかえ3月号

特集1 認知症の予防と治療UPDATE
 特集2 糖尿病のある人の寿命って延伸していますか?
 特別企画1 糖尿病と痛み
 特別企画2 腸内細菌と肥満・糖尿病

DM Ensemble

医療者向け/季刊/定価：990円(会員は半額)/64ページ/A4判



Vol.11 No.1 (2022年5月発行)

特集 高齢糖尿病患者におけるフレイル対策

Vol.11 No.2 (2022年8月発行)

特集 減量・代謝改善手術のチーム医療

Vol.11 No.3 (2022年11月発行)

特集1 日本糖尿病協会年次学術集会ダイジェスト
 特集2 「DM Ensemble」10年の振り返りと新創刊に向けて



2023年2月号より誌面をリニューアルし、年6回発行の電子版として新創刊。雑誌としての発行は終了した。

Vol.11 No.4 (2023年2月発行) デジタル版

特集1 日本糖尿病協会のアドボカシー活動～医療の現場から、糖尿病にまつわることを見直そう～
 特集2 チームで取り組む重症低血糖対策

糖尿病協会グッズ紹介

日本糖尿病協会では、糖尿病関連企業の協賛により下記の糖尿病協会グッズを発行。医療施設などを通じて無料で配布しています。

糖尿病連携手帳

1,661,200部発行

検査値や治療内容などを記録し、地域連携・病診連携に活用される手帳



自己管理ノート

1,229,000部発行

毎日の血糖自己測定結果だけでなく、血圧、体重、歩数も記録し、主治医と情報共有する複写式のノート



糖尿病患者用IDカード

15,000部発行

緊急時に糖尿病であることを周囲に知らせるカード。



(会員限定)

【改訂版】

糖尿病食事療法の あいうえお

235,000部発行

食べる順番のコツやたんぱく質摂取の重要性を訴求するページを新設し、毎日の食事療法をわかりやすく説明する冊子



おいしく、楽しく!!

あなたの腎臓を守る 食事療法かきくけこ

139,000部発行

糖尿病腎症の食事療法の工夫を紹介する冊子



心も体も元気にしたい!

食事の工夫

～料理をしてみませんか?

40,000部発行

高齢世代を対象とした簡単でおいしいレシピも掲載の食事療法冊子



血糖値が高めといわれた

妊婦さんのための 食事療法

40,000部発行

妊娠糖尿病の食事について詳しくまとめられた冊子

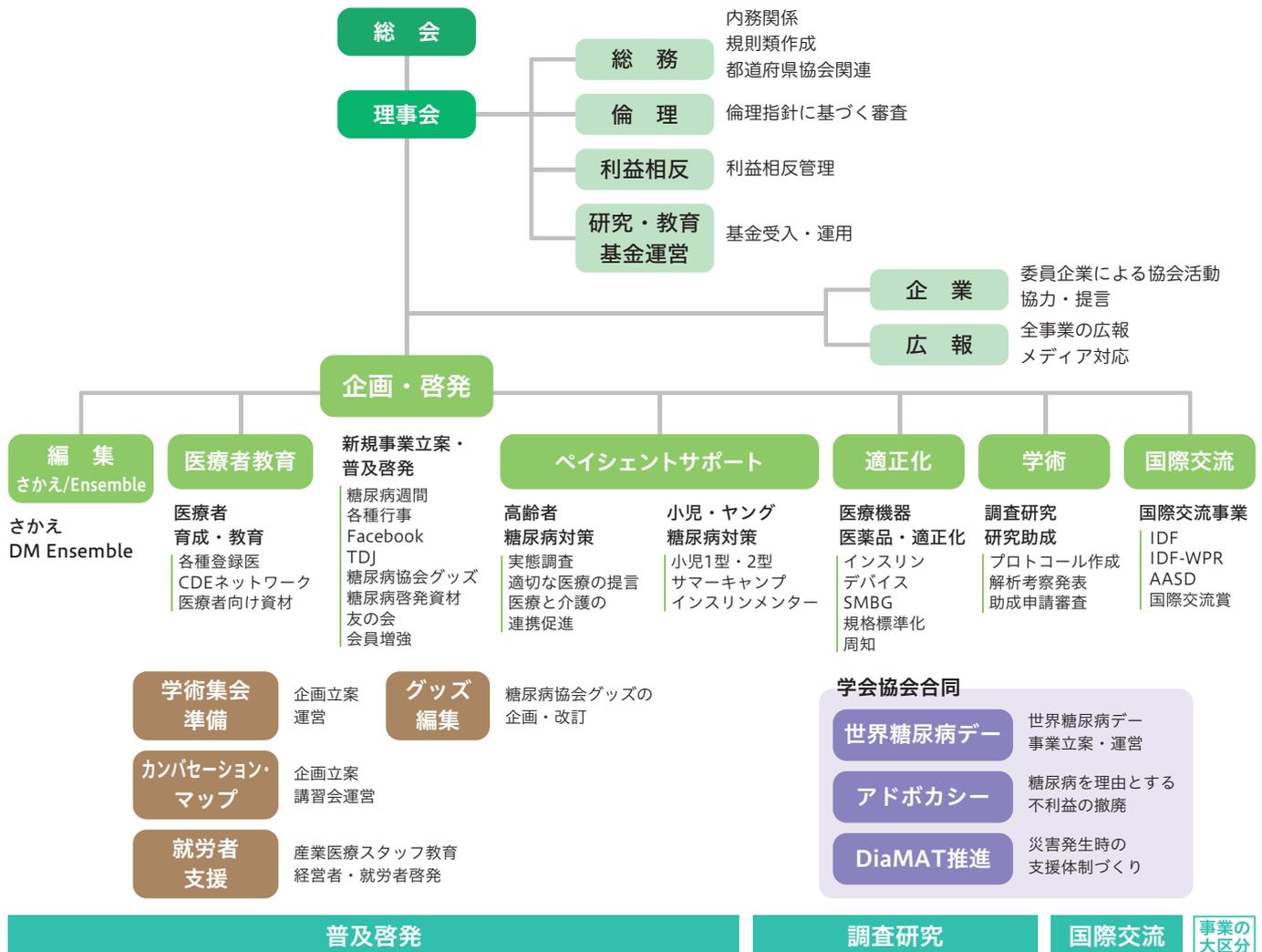


日本糖尿病協会と連携する諸団体

日本糖尿病協会は、47の都道府県糖尿病協会と連携して全国で啓発活動を展開しています。また日本糖尿病学会や日本医師会、日本歯科医師会など日本国内の主要な糖尿病関連団体と密接な関わりを持つほか、海外の諸団体とも交流・連携を行い、糖尿病の克服をめざしています。



日本糖尿病協会組織図



2022年度 役員名簿

| 役職 | 氏名 | 役職 | 氏名 | 役職 | 氏名 | 役職 | 氏名 |
|--------|--------|----|-------|----|--------|----|--------|
| 理事長 | 清野 裕 | 理事 | 渥美 義仁 | 理事 | 朝倉 俊成 | 理事 | 津村 和大 |
| 業務執行理事 | 安西 慶三 | 理事 | 八幡 和明 | 理事 | 茅山 加奈江 | 理事 | 寺内 康夫 |
| 業務執行理事 | 稲垣 美智子 | 理事 | 中村 二郎 | 理事 | 幣 憲一郎 | 理事 | 南條 輝志男 |
| 業務執行理事 | 戸所 文生 | 理事 | 矢部 大介 | 理事 | 上原 茂 | 理事 | 野見山 崇 |
| 業務執行理事 | 中園 徳斗士 | 理事 | 稲垣 暢也 | 理事 | 内潟 安子 | 理事 | 堀田 饒 |
| 業務執行理事 | 矢島 鉄也 | 理事 | 権野 博 | 理事 | 太田 謙司 | 監事 | 岩本 安彦 |
| 業務執行理事 | 山田 祐一郎 | 理事 | 中村 慶子 | 理事 | 遅野井 健 | 監事 | 長田 信也 |
| 理事 | 種田 紳二 | 理事 | 藤本 新平 | 理事 | 角田 徹 | | |
| 理事 | 赤井 裕輝 | 理事 | 岩本 信行 | 理事 | 門脇 孝 | | |
| 理事 | 麻生 好正 | 理事 | 小林 邦久 | 理事 | 坂本 辰蔵 | | |

2022年度 決算書

正味財産増減計算書 2022年4月1日から2023年3月31日まで

| (単位：円) | | (単位：円) | |
|-----------------|-------------|-------------------|---------------|
| 科 目 | 当年度 | 科 目 | 当年度 |
| I 一般正味財産増減の部 | | 2. 経常増減の部 | |
| 1. 経常増減の部 | | (1) 経常外収益 | |
| (1) 経常収益 | | 経常外収益計 | 0 |
| 特定資産運用益 | 7,034 | (2) 経常外費用 | |
| 受取会費 | 130,922,344 | 経常外費用計 | 0 |
| 事業収益 | 574,402,399 | 当期経常外増減額 | 0 |
| 調査研究収益 | 23,814,762 | 他会計振替前当期一般正味財産増減額 | 28,177,016 |
| 受取寄付金 | 31,521,136 | 一般正味財産期首残高 | 583,762,224 |
| 雑収益 | 20,296,196 | 一般正味財産期末残高 | 611,939,240 |
| 経常収益計 | 780,963,871 | II 指定正味財産増減の部 | |
| (2) 経常費用 | | 受取助成金 | 0 |
| 管理費 | 33,006,181 | 受取寄付金 | 31,577,700 |
| 事業費 | 719,780,674 | 調査研究収益 | 20,000,000 |
| 経常費用計 | 752,786,855 | 一般正味財産への振替額 | △44,284,762 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 28,177,016 | 当期指定正味財産増減額 | 7,292,938 |
| 当期経常増減額 | 28,177,016 | 指定正味財産期首残高 | 439,654,622 |
| | | 指定正味財産期末残高 | 446,947,560 |
| | | III 正味財産期末残高 | 1,058,886,800 |

2022年度 日本糖尿病協会賞受賞者

日本糖尿病協会では、毎年、協会活動を通じて日本の糖尿病対策に貢献された方々を表彰しています。

2022年度の日本糖尿病協会受賞者は、以下のみなさまです。

受賞者の功績については、ホームページでご紹介いたしますので、そちらもぜひご覧ください。

アレテウス賞

国内外における糖尿病医療への学術的貢献が顕著であり、かつ教育や日糖協活動を通じた糖尿病治療への貢献が著しい医療者に贈られます。



安西 慶三氏

佐賀大学医学部
肝臓・糖尿病・内分泌内科学

ウイリアム・カレン賞

原則50歳未満で、糖尿病対策の公益活動を積極的に推進している医療者に贈られます。

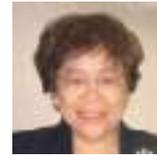


中村 昭伸氏

北海道大学大学院
医学院・医学研究院
免疫・代謝内科学教室

立川・大部賞

糖尿病のある人への支援、糖尿病の社会啓発、国際交流などにしなやかな力を発揮する女性に贈られます。2022年度より、立川俱子氏とともに協会活動に貢献された大部正代氏のお名前も冠し「立川・大部賞」となりました。



東山 弘子氏

関西電力医学研究所
医学教育研究部

地域糖尿病医療賞(小内裕賞)

2022年度より、地域における糖尿病医療連携の促進やCDEL育成に尽力した医療従事者を表彰する賞として、「地域糖尿病医療賞(小内裕賞)」が創設されました。



小内 裕氏

小内医院

パラメデス賞

糖尿病対策の公益活動を積極的に推進し、日糖協活動を通じた社会貢献に取り組む糖尿病とともに生きる方へ贈られます。

推薦なし

功 労 賞

日本糖尿病協会の会員として、日糖協事業の推進、地域組織の強化、会員増強など長年にわたり多大な功績を残した方に贈られます。
※佐藤利昭氏と吉岡かおり氏は共同受賞です



平田 龍二氏

鹿児島県糖尿病協会前会長



佐藤 利昭氏

隠岐の島町国民健康保険
五箇診療所



吉岡 かおり氏

元島根県糖尿病協会事務局

CDE Award

糖尿病がある人への医療支援に顕著な貢献のあるメディカルスタッフに贈られます。



看護師部門

鈴木 麗子氏

徳島大学先端酵素学研究所



管理栄養士部門

茂山 翔太氏

関西電力病院



薬剤師部門

篠原 久仁子氏

薬局恵比寿ファーマシー



理学療法士部門

井垣 誠氏

公立豊岡病院組合立豊岡病院

ガリクソン賞

小児期発症の1型糖尿病のある方で、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する方や、キャンプOB・OGとして小児糖尿病キャンプでのスタッフとしての貢献が著しい方に贈られます。



太田 裕幸氏

北海道つぼみの会



齊藤 美保子氏

秋田大学医学部附属病院



福島 壮気氏

群馬小児糖尿病の会
(ひまわりの会)



赤岡 里紗氏

市立宇和島病院



田村 あゆみ氏

南昌江内科クリニック

小児糖尿病功労賞

小児糖尿病サマーキャンプの運営、小児糖尿病の医療や治療支援等に、原則として10年以上貢献のあった方に贈られます。



佐藤 詩子氏

公益社団法人東京都教職員
互助会 三楽病院



川村 智行氏

大阪公立大学医学部附属病院



竹田 晴生氏

美里リハビリテーション
クリニック

日本糖尿病協会へはどなたでも入会できます！入会方法は2種類

①「友の会」への入会

友の会とは？

各地の医療機関ごとに、糖尿病がある人とその家族、医師、看護師、栄養士などの医療スタッフで作られています。



「友の会」の会費・入会方法

- 「友の会」ごとに活動内容が異なるため、会費は全国一律ではありません
- まずは通院している医療機関にお問い合わせください
- 通院している医療機関に友の会がない場合でも、都道府県糖尿病協会が設ける友の会に入会できる場合がありますので、日本糖尿病協会、または、都道府県糖尿病協会にご相談ください。

② 本部会員として入会

活動する時間のない方、まずは「さかえ」を読みたい方、受診している医療機関に「友の会」がない方

本部会員への入会方法

- 日本糖尿病協会本部事務局にご連絡ください
入会のお申込み、お問い合わせは、電話・ファックス・ウェブ・Eメールでお気軽に

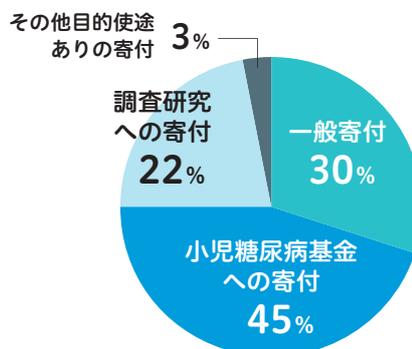
☎ 03-3514-1721 📠 03-3514-1725 🌐 www.nittokyo.or.jp ✉ office@nittokyo.or.jp

ご寄付(非課税扱い)について

日本糖尿病協会では随時ご寄付を受け付けています。当協会は、「特定公益増進法人」として認められていますので、2,000円以上のご寄付は非課税扱いとなります。協会活動全般へのご支援のほか、糖尿病のある子どもの支援に特化した小児糖尿病基金へのご寄付も受け付けています。ぜひ、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付のご相談は、本部事務局までお気軽にご連絡ください。

2022年度 目的別寄付の割合



ウクライナ支援募金のご報告

戦禍によりウクライナで困難な生活を強いられている糖尿病の方々を支援するため、2022年7月から募金活動を行いました。多数の温かいお志をいただくことができ、総額102万6210円をウクライナ大使館を通じて、ウクライナ糖尿病連合に寄付いたしました。募金活動にご協力くださった皆さまに感謝申し上げます。

都道府県糖尿病協会一覧

北海道

北海道糖尿病協会
☎ 011-231-4032
医療法人 萬田記念病院

東北

青森県糖尿病協会
☎ 0172-39-5062
弘前大学大学院医学研究科
内分泌代謝内科学講座

秋田県糖尿病協会
☎ 018-884-6769
秋田大学大学院医学系研究科
代謝・内分泌内科学

岩手県糖尿病協会
☎ 019-623-7111 (内6271)
岩手医科大学医学部 内科学講座
糖尿病・代謝・内分泌内科学分科

山形県糖尿病協会
☎ 023-682-1111
済生会山形済生病院

宮城県糖尿病協会
☎ 022-717-7611
東北大学加齢医学研究所プロジェクト棟5F
糖尿病代謝・内分泌科

福島県糖尿病協会
☎ 024-925-1188
太田西ノ内病院 庶務課

関東甲信越

茨城県糖尿病協会
☎ 029-353-2800
医療法人健清会 那珂記念クリニック

群馬県糖尿病協会
☎ 027-220-8121
群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科

栃木県糖尿病協会
☎ 0282-87-2150
獨協医科大学病院 内分泌代謝内科

東京都糖尿病協会
☎ 03-6892-2962
東京都糖尿病協会事務局

千葉県糖尿病協会
☎ 043-245-8808
千葉県糖尿病協会事務局

埼玉県糖尿病協会
☎ 048-681-0526
自治医科大学附属さいたま医療センター

神奈川県糖尿病協会
☎ 080-8815-1234
川崎市立川崎病院 糖尿病内科

山梨県糖尿病協会
☎ 055-273-9602
山梨大学医学部 糖尿病・内分泌内科

長野県糖尿病協会
FAX 0267-67-4920
佐久市立国保浅間総合病院

新潟県糖尿病協会
☎ 025-368-9026
新潟大学歯医学総合病院
血液・内分泌・代謝内科医局

中部

静岡県糖尿病協会
☎ 054-247-6134
静岡県立総合病院 栄養管理室

愛知県糖尿病協会
☎ 0561-63-1682
愛知医科大学医学部内科学講座
糖尿病内科

三重県糖尿病協会
☎ 059-331-2000
JCHO四日市羽津医療センター

岐阜県糖尿病協会
☎ 058-230-6378
岐阜大学医学部附属病院 糖尿病代謝内科

富山県糖尿病協会
☎ 076-433-8843
富山赤十字病院 医療社会事業部

石川県糖尿病協会
☎ 0761-21-0965
石川県糖尿病協会事務局

福井県糖尿病協会
☎ 0776-24-2410
医療法人初生会福井中央クリニック 内科

近畿

滋賀県糖尿病協会
☎ 077-522-4131
大津赤十字病院 栄養課

京都府糖尿病協会
☎ 070-5267-1929
京都府立医科大学附属病院
内分泌・免疫内科医局

大阪府糖尿病協会
☎ 06-6879-3743
大阪大学大学院医学系研究科
内分泌代謝内科学講座

和歌山県糖尿病協会
☎ 073-445-9436
和歌山県立医科大学附属病院 第1内科医局

奈良県糖尿病協会
☎ 0744-22-3051
奈良県立医科大学 糖尿病・内分泌内科学

兵庫県糖尿病協会
☎ 078-382-5868
神戸大学大学院医学研究科内科学講座
糖尿病・内分泌内科学部門

中国・四国

岡山県糖尿病協会
☎ 086-235-7235
岡山大学大学院歯医学総合研究科
腎・免疫・内分泌代謝内科学教室

広島県糖尿病協会
☎ 082-257-1784
広島大学大学院医学系科学研究科
糖尿病・生活習慣病予防医学

鳥取県糖尿病協会
☎ 0859-24-1151
住吉内科眼科クリニック

島根県糖尿病協会
☎ 0852-61-9854
松江赤十字病院 栄養課

山口県糖尿病協会
☎ 0836-22-2251
山口大学医学部 第三内科

香川県糖尿病協会
☎ 087-891-2230
香川大学医学部
内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座

徳島県糖尿病協会
☎ 088-633-7587
徳島大学先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発センター

高知県糖尿病協会
☎ 088-880-2343
高知大学医学部
内分泌代謝・腎臓内科学（第二内科）

愛媛県糖尿病協会
☎ 080-5667-2786
愛媛大学大学院医学系研究科
糖尿病内科

九州

福岡県糖尿病協会
☎ 092-631-0656
九州大学医学部 病態機能内科学(第2内科)

大分県糖尿病協会
☎ 097-586-5089
大分大学医学部 看護学科

佐賀県糖尿病協会
☎ 0952-34-2551
佐賀大学医学部 看護学科

長崎県糖尿病協会
みどりクリニック

熊本県糖尿病協会
☎ 096-365-5414
熊本県糖尿病協会事務局

宮崎県糖尿病協会
☎ 0985-22-8015
平和台病院1階

鹿児島県糖尿病協会
☎ 099-275-6436
鹿児島大学病院
糖尿病・内分泌内科医局

沖縄県糖尿病協会
☎ 098-886-6955
医療法人陽心会



秋田県 糖尿病 協会

2022年度は3年ぶりに「第58回全国糖尿病週間秋田県の集い～糖尿病ブルーサークル運動～」を開催致しました。ブルーサークルと秋田県のなまはげをモチーフに作成した糖尿病予防のロゴマーク「NAMAHAGE BLUE CIRCLE Anti Diabetes」にちなんで、青なまはげと一緒に秋田駅前前で世界糖尿病デーのPRと糖尿病予防の啓発活動を行いました。ブルーライトアップ事業も秋田県内の数か所で継続して行っております。



茨城県 糖尿病 協会

茨城県糖尿病協会は、新型コロナウイルス感染症の流行による活動制限の中可能な限り活動を続けてきた。機関誌発行は従来通り年4回発行し、LCDEは受験条件を一新し2年間で新たに230名を認定した。

昨年は小児糖尿病サマーキャンプを見送る代わりに、初の日帰りイベント・サマーデイキャンプを開催した。運動やディスカッション等、身体と頭を使って楽しめるプログラムで、総勢40名の参加者を得られた。今後も茨城県糖尿病協会を支援して下さい皆様と共に、更なる発展を目指して行きたい。



2022年度 サマーデイキャンプ プログラム

| 時間 | 内容 | 講師 |
|-------|----------|-----|
| 9:00 | 集合 | 事務局 |
| 9:30 | 開会式 | 事務局 |
| 10:00 | 運動会 | 事務局 |
| 10:30 | ディスカッション | 事務局 |
| 11:00 | ランチ | 事務局 |
| 11:30 | 運動会 | 事務局 |
| 12:00 | 閉会式 | 事務局 |
| 12:30 | 解散 | 事務局 |

広島県 糖尿病 協会

2022年度もコロナ感染予防対策の為、各イベントは中止になりましたが、機関紙「糖苑」は3回発行し、ホームページでは「糖尿病小話」を隔月にアップし、患者様、医療スタッフへの情報提供を行いました。

世界糖尿病デー啓発活動として、広島県医師会との共催事業でエールエールA館にてブルーライトアップを実施し、基町クレドビジョン&八丁堀C-Visionでは啓発CMを作成し7日間放映しました。

今年度はウォークラリーや糖尿病教室も中止になり集まることができなかつたので、令和5年では開催を目指します。



徳島県 糖尿病 協会

徳島県糖尿病協会では、設立60周年記念誌を発刊し、清野裕理事長、徳島県知事をはじめ多くのご寄稿を頂きました。

活動では、コロナ禍における新たな取り組みとして11月に糖尿病へのスティグマ予防をめざす啓発活動「糖尿病フォーラムin徳島」を開催し、市民1000名以上へのアクセスができました。また、成人1型糖尿病の会「AWA DM.com」はWeb開催に変え、参加者が徳島県から日本各地に広がる期待以上の効果が得られました。新型コロナウイルス感染予防ガイドブックも情勢に合わせ第6版まで改訂しました。





公益社団法人 日本糖尿病協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 麹町セントラルビル8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

<https://www.nittokyo.or.jp>

<https://www.facebook.com/nittokyo>